



豊橋市

男女共同参画に関する市民意識調査

調査結果報告書 概要版

豊橋市では、男女がそれぞれの個性と能力を十分に発揮し、いきいきと暮らすことができる男女共同参画社会の実現をめざし、様々な施策を推進しています。この冊子では、男女共同参画に関する市民の意識を把握するために実施したアンケート調査の主な結果について紹介します。

《調査の概要》

- 調査目的：本調査は、社会情勢の変化に対応した効果的な男女共同参画施策を展開するため、市民の意識やニーズを把握する目的で実施しました。
- 調査対象：豊橋市在住の20歳以上の男女
- 調査人数：3,000人
- 有効回収：1,127票（37.6%）
- 抽出方法：無作為抽出
- 調査時期：平成26年9月

豊橋市 市民協働推進課

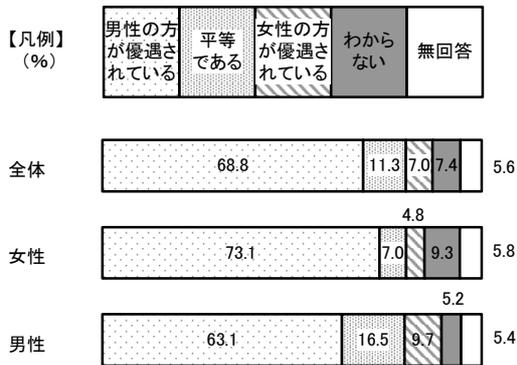
TEL：0532-51-2188

平成27年2月発行

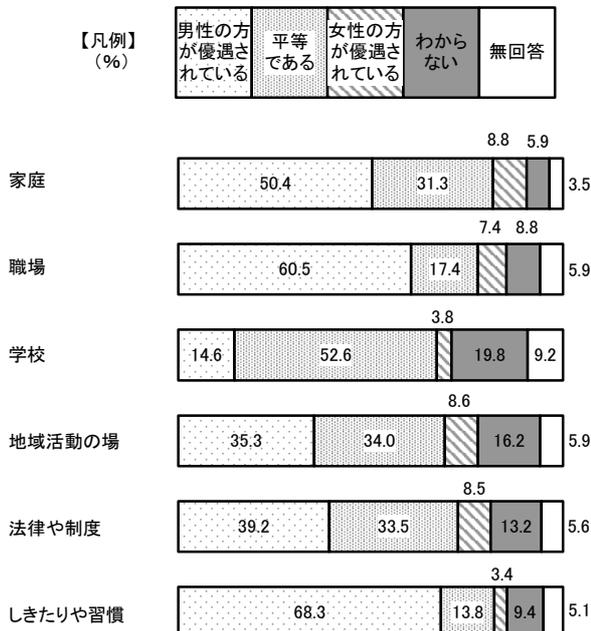
社会全体の男女の地位評価では、約7割の人が「男性の方が優遇されている」と感じています

- 社会全体でみた男女の地位の平等感についてたずねたところ、約7割の人が『男性の方が優遇されている』と感じており、その割合は男性よりも女性で高くなっています。
- 場面及び分野別でみると、「学校」では5割以上の人が、「家庭」「地域活動の場」「法律や制度」では3割以上の人が『平等である』と答えています。

■ 社会全体 ■

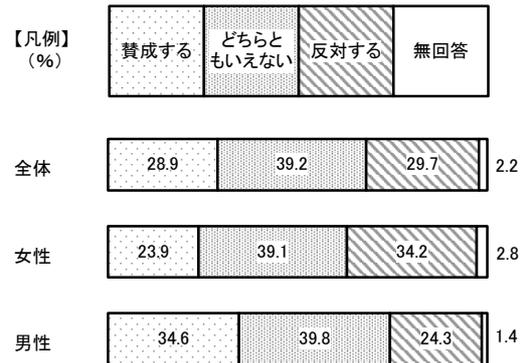


■ 場面及び分野別 ■



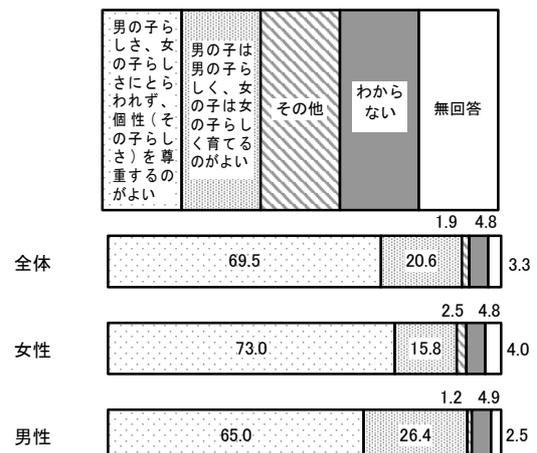
約3割の人が「男は仕事、女は家庭」という考え方に反対しています

- 「男は仕事、女は家庭」という考え方については、約3割の人が『反対する』としています。
- 男女別でみると、女性は男性に比べ『反対する』人の割合が高く、男性は女性に比べ『賛成する』人の割合が高くなっています。



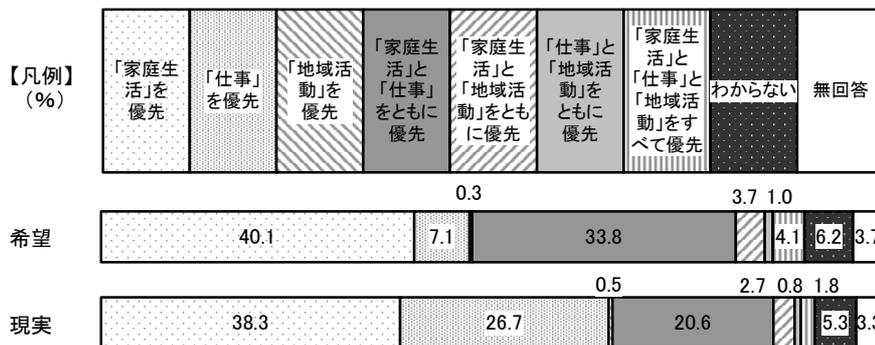
約7割の人が「性別にとらわれず、個性を尊重する子育てがよい」と回答しています

- 子育ての方針についてたずねたところ、約7割の人が『男の子らしさ、女の子らしさにとらわれず、個性（その子らしさ）を尊重するのがよい』と答えています。
- 男女別でみると、『男の子らしさ、女の子らしさにとらわれず、個性（その子らしさ）を尊重するのがよい』と答えた人の割合は、男性よりも女性で高くなっています。



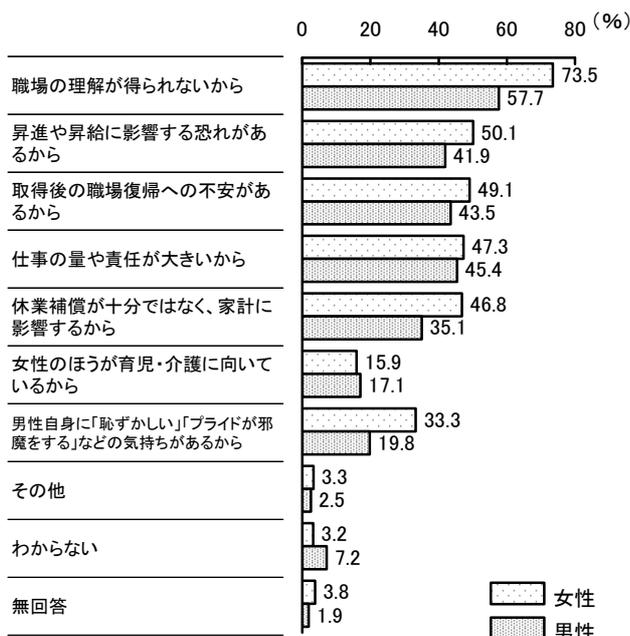
3割以上の人が「家庭生活」と「仕事」をともに優先したいと希望していますが、現実に優先している人は約2割にとどまっています

- 「家庭生活」「仕事」「地域活動」の優先度について、希望と現在の状況をたずねたところ、『「仕事」を優先したい』と希望する人に対して、現実に『「仕事」を優先している』人は19.6ポイント増加しています。その一方で、『「家庭生活」と「仕事」をともに優先したい』と希望する人に対して、現実に『「家庭生活」と「仕事」をともに優先している』人は13.2ポイント減少しています。



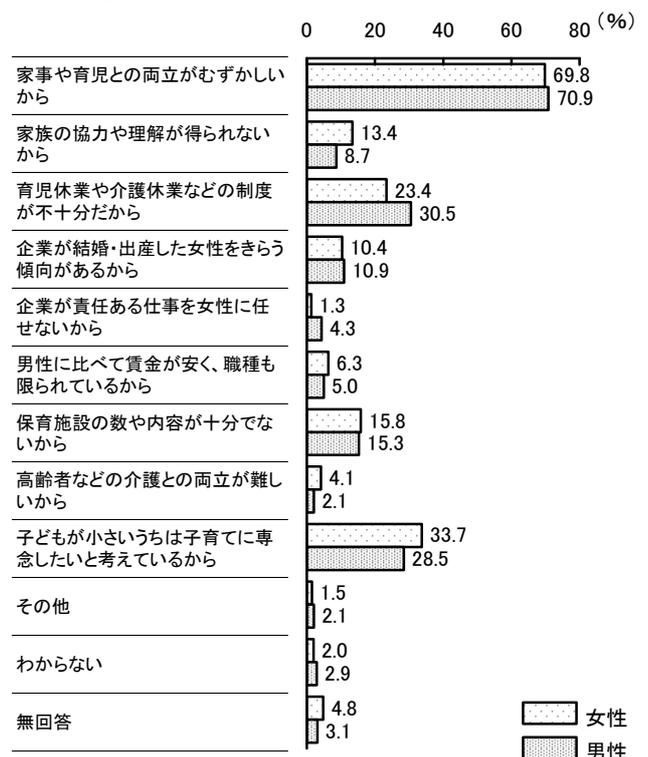
男性が育児や介護で休みをとらない理由

- 男性が育児や介護で休みをとらない理由を複数選択でたずねたところ、『職場の理解が得られないから』と答えた人の割合が最も高くなっています。



女性が結婚や出産を機に仕事をやめる理由

- 女性が結婚や出産を機に仕事をやめる理由を2つたずねたところ、『家事や育児との両立がむずかしいから』と答えた人の割合が最も高くなっています。



女性の4人に1人は配偶者や交際相手から何らかの暴力を受けた経験があります

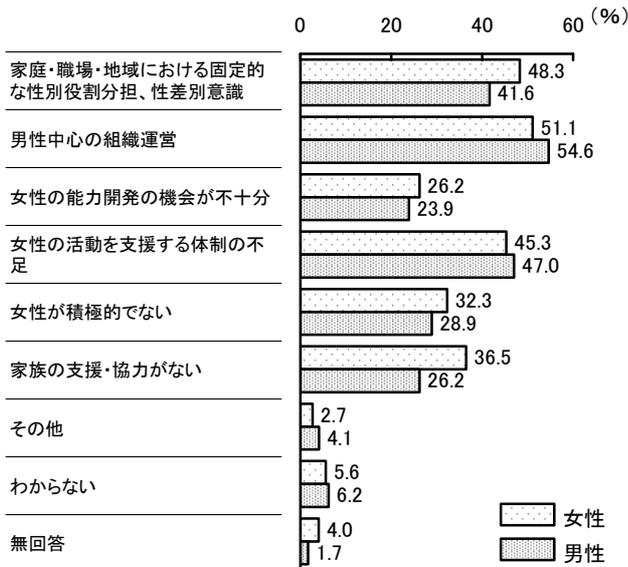
- これまでに配偶者や交際相手から暴力（DV）を受けた経験があるかをたずねたところ、何らかの暴力を受けたことがある人は女性では4人に1人、男性では13人に1人の割合となっています。

	命の危険を感じるくらいの暴行を受けた	医師の治療が必要となる程度の暴行を受けた	いやがっているのに性的行為を強要された	見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられた	何を言っても無視され続けた	交友関係や電話を細かく監視された	「だれのおかげで生活できるんだ」「かしようなし」などと言われた	大声でどなられたり、暴言を吐かれたりした	生活費をわたされえないなど、経済的におさえつけられた	今までなかった	無回答	何らかの暴力を受けたことがある（※）
女性	1.3%	2.8%	5.0%	0.8%	4.5%	4.1%	6.8%	15.4%	4.6%	68.2%	6.6%	25.2%
男性	—	0.2%	—	—	3.1%	1.4%	1.7%	4.5%	0.4%	80.4%	11.8%	7.8%

（※）全体から「今までなかった」と「無回答」を除いた割合

政策や方針決定の場への女性の参画状況が男性よりも低い理由

- 政策や方針決定の場への女性の参画状況が男性よりも低い理由を複数選択でたずねたところ、『男性中心の組織運営』と答えた人の割合が最も高く、続いて『女性の活動を支援する体制の不足』と『家庭・職場・地域における固定的な性別役割分担、性差別意識』の割合が高くなっています。



男女がともに多様な働き方を選択できる環境が求められています

- 男女共同参画社会実現のために力を入れるべきことを3つたずねたところ、『男女がともに多様な働き方を選択できる環境を整備する』や『保育の施設・サービスや高齢者等の施設・介護サービスを充実する』と答えた人の割合が高くなっています。

